



教団ニュース

# アッセンブリー

JAPAN ASSEMBLIES OF GOD

本年の標語 **ペンテコステ信仰の継承と前進**

教会は、……基礎がかたまり、主をおそれ聖霊にはげまされて歩み、次第に信徒の数を増して行った。使徒行伝9章31節

## 教団創立五〇年に寄せて

教団創立から、すでに五〇年の歳月が流れたとは、まことに感慨無量であります。

「万物は、神からいで、神によって成り、神に帰するのである。栄光がとこしえに神にあるように、アーメン。」とローマ人への手紙の一章三六節にあります。教団創立も、現在の存在も、未来の完成も、まさに神からいで、神によって成り、神に帰するのであります。

人の世に過去、現在、未来がある限り、私は過去を知り、未来にビジョンを持つことは当然であり大切なことだと思っております。しかし、過去は、確定したものであって変えることはできないものであり、未来は不確定なものでありますから、きわめて大切なのは現在であると思っております。

私たちは、現在の瞬間を大切にしましょう。身近な日常の義務を、コツコツと実行しなければなりません。人生は小さいものの積み重ねです。一度に大きいことをしようとするよりも、小さなことに、全力を傾けて行動すべきであります。

教団が神からいで、神によって存在させられてきたのですから、神によって存在目的を果たさせていただけると、私は確信しています。

人間は、神によらねば何も出来ません。しかし、神は人間によって大いなることをなさつたし、現在もなさつておられ、未来にもなさるでしょう。これは、神の極度の謙譲と人間の全き自我否定の信頼によるのであります。それが涙であろうと笑いであろうと、苦痛であろうと快楽であろうと、私たちは感謝することが出来るのであります。

「栄光がとこしえに神にあるように」というのが、私たちが存在させていたでいる意義であり、働きの目的であります。

「私の頭の上には冬があります。私の心の中には永遠の春があります。私は二〇年前と同じ様に、ライラックと、すみれと、ばらの香りをこの瞬間に呼吸しています。」(ピクトル・ユーゴー)というのが現在の私の心境であります。栄光在主。



弓山 喜代馬

(教団名誉総理)